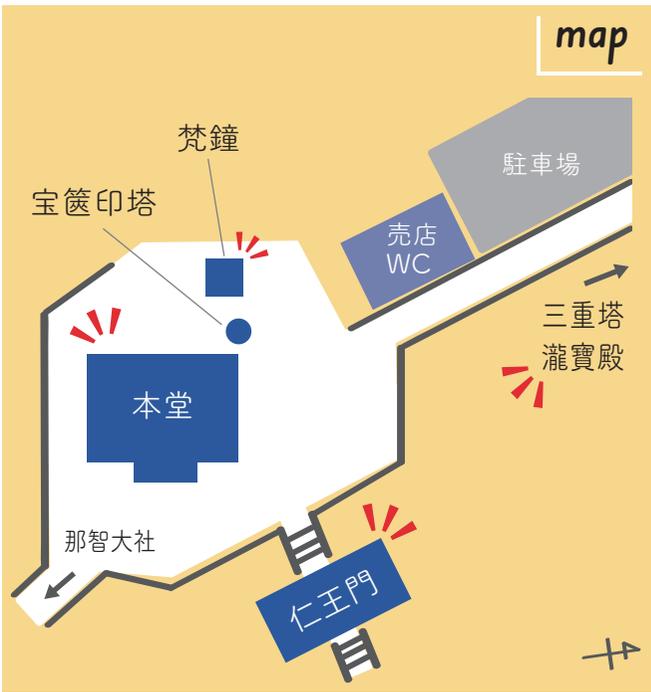
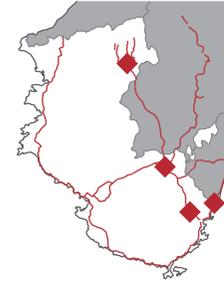


紀伊山地の霊場と参詣道 文化財巡礼のしおり



「紀伊山地の霊場と参詣道」は、和歌山、奈良、三重にまたがっています。「熊野三山」「高野山」「吉野・大峯」という日本有数の聖地と、それらをつなぐ参詣道の文化的景観の価値が認められ、2004年に世界遺産に登録されました。今年で登録20周年を迎えます。



紀伊山地の霊場と参詣道

那智山青岸渡寺

文化財巡礼のしおり

info なちさんせいがん とじ 那智山青岸渡寺 三重塔

和歌山県東牟婁郡那智勝浦町那智山 8

Open 8:30-16:00

入館料 大人 300 円

子供 200 円

休館日 不定休（ほぼ無休）



熊野本宮大社

堂々たる社殿（重文）だけでなく、宝物殿には日本で二番目に古い鎌倉時代の「鉄湯釜」（重文）など、奉納品の数々が。



熊野速玉大社

足利義満らによって奉納された、国宝の手箱などの至宝を展示。祭礼で使われていた重文の神輿や船も見ごたえたっぷり。



熊野那智大社

言わずと知れた那智滝、社殿（重文）に宝物殿と見所沢山。参詣曼荼羅や古代～中世の埋納品など、熊野の信仰を堪能。



高野山

「山の正倉院」と呼ばれる国内屈指の文化財の宝庫。高野山霊宝館には約3万点の国宝・重要文化財を収蔵。



和歌山県立博物館

1年を通じて「聖地巡礼—熊野と高野—」と題し、特別展を開催中。6/15から3/9まで、時期を分けて熊野三山と高野山のそれぞれにスポットを当てます。



本リーフレットは、世界遺産を構成する寺社のうち、美術工芸品の展示公開施設を有する寺社を対象に作成しています。

発行日 / 2024（令和6）年7月
編集・発行 / 和歌山県教育委員会



stamp



仁王像のうち 吽形像

那智山青岸渡寺

巡礼者で賑わう、西国三十三所第一番札所



青岸渡寺の本堂（重要文化財）は、豊臣秀吉の命を受け、その弟秀長が再建したもの。日本最古の巡礼路である西国三十三所の第一番札所であり、本尊は如意輪観音（秘仏）。今もなお巡礼者が途切れることなく訪れる、観音霊場です。



わにぐち

鰐口

県指定文化財

本堂の内部にかかっている直径 140cm にもなる超巨大鰐口。銘文には、天正 18 年（1590）に豊臣秀吉が奉納したと刻まれています。そして別の史料では、永祿 10 年（1567）の戦火により溶けてしまった東大寺の大仏の銅が使われている、という記述も。紆余曲折に歴史のロマンを感じます。



おせた
御背板

本堂の中に展示されています

西国三十三所をなんと一年に三回ずつ、十一年間巡礼した「三十三度行者（ぎょうじゃ）」という行者が背負った道具。御背板には三十三所のミニチュアが収められています。各地でこれを開き、読経をしてまわりました。

におうぞう

仁王像

県指定文化財

高さ約 3m の勇壮な仁王像。鎌倉時代後期の作と見られています。かつては今の大門坂にあった大門に安置されていました。中世の那智山の様子を描いた絵画には、かつての大門とこの仁王像が描かれています。今の仁王門自体は、昭和 8 年（1933）に再建されたもの。それ以前は青岸渡寺の本堂に納められていたのだとか。肋骨の上の胸筋や手の甲の青筋など、その迫真の表現にシビれます！



ほんしょう
梵鐘

県指定文化財

本堂の裏にひっそりと立つ鐘楼に、ひっそりと吊り下げられた梵鐘。実は鎌倉時代の元亨 4 年（1324）の作なのです。中世の頃の那智山の様子を表した絵にも鐘楼が描かれており、この梵鐘がかけられていたと見られます。現在も毎朝 7 時に撞かれており、700 年間、連綿と那智山に時を知らせ続けています。



なちきょうづかしゆつどひん

瀧寶殿特別公開と那智経塚出土品



重要文化財

通常非公開の瀧寶殿で特別公開が実施されます。期間は 9/14～9/23、11/1～11/30（10～15 時）。最も注目すべき是那智山経塚出土品（一部複製）。天台密教の世界観を、銅製の仏像や仏を表すアイコン（三昧耶形 [さんまやぎょう]）で立体的に表したものです。国内に他に例はありません。大正 7 年（1918）に那智の滝の近くから発見されました。別の史料から時期も埋納者も全容も分かる、唯一無二の逸品です。